

島根大学

## 島根県立三瓶自然館との共催で「サヒメル科学探険隊 2020」を実施

島根大学演習林

演習林年報 33 号ですすでにご紹介していますように、2018 年度より島根県立三瓶自然館サヒメルとの共催で「サヒメル科学探険隊」を実施しています。参加者は地域住民を中心とした小学校 4 年生から 6 年生の児童です。

2020 年は新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、大学生を対象とした公開森林実習はほとんど不開講となり、科学探険隊も開催が危ぶまれましたが、感染拡大防止に最大限に配慮するため事前に三瓶自然館と打ち合わせを繰り返し、10 月 25 日の日曜日になんとか実施にこぎつけました。出席してくれた子ども達も、指導をした演習林教職員も、引率の学芸員諸氏も感染拡大を防ぐために皆マスクをしての参加に加え、事あるごとに手洗いと手指消毒が欠かせませんでした。文句も言わず参加してくれた子ども達に感謝です。

探険テーマは、2018 年度の「酸性雨」、2019 年度の「樹木の成長」に続いて、2020 年度は「温室効果ガス」でした。具体的な活動は、子ども達とともに演習林の森林にはいりこみ樹木表面と土壌での二酸化炭素の出入りを観測することです。動物や植物と二酸化炭素の関係を学んだ上で、樹木の葉っぱは二酸化炭素を吸ってる？吐いてる？樹木の幹は二酸化炭素を吸ってる？吐いてる？森林土壌は二酸化炭素を吸ってる？吐いてる？などの具体的な観測例から森林生態系での二酸化炭素の動きを考える探険でした。

開催時期が 10 月下旬であったため気温も低く植物の活性や土壌微生物の活性も低下していたかと思うので、このテーマを次回実施する場合はもう少し気温の高い 8-9 月に実施できれば良いかなと思っています。

写真は、島根県立三瓶自然館より提供していただいた科学探険隊当日の記念写真です。

